

光星ナイン 鋭い打球

あす準々決勝 中京大中京(愛知)戦



準々決勝に向け、打撃練習に励む八学光星ナイン
—25日午前、兵庫県西宮市の津門中央公園野球場

リットといった変化球を巧みに使い分ける右腕。同141cmの左腕太田は威力のある直球と制球力が持ち味。今大会は2試合とも安藤、太田の継投で勝ち上がった。

打撃は長打力のある4番の主将秋田、5番松田が軸。昨年まで臨時コーチを務めた元中日の荒木雅博氏が仕込んだ、二遊間を中心とした堅守も武器だ。
(棟方好華)

第98回選抜高校野球大会(センバツ)に出場している本県の八戸学院光星は27日第1試合(午前8時半開始予定)の準々決勝で、4強入りを懸けて中京大中京(愛知)と対戦する。2回戦突破から一夜明けた25日、ナインは兵庫県西宮市の津門中央公園野球場で約2時間練習に励んだ。

仲井監督の「さあ、声を出していこう」のかけ声を合図に打撃練習がスタート。選手たちは「バットはタイミングだぞ」などと仲井監督からアドバイスを受けながら、相手投手陣を想定した左右の打撃投手から鋭い打球を放っていた。5番新谷契は「優勝に向かって目の前の試合を大事に戦っていききたい」と力を込めた。

昨秋の東海地区王者の中京大中京は、春夏通算11回の全国最多優勝を誇る

る伝統校。今大会は初戦で阿南光(徳島)を3-1で破ると、2回戦で帝京(東京)を延長10回タイブレークの末に9-4で下した。最速144km/hのエース安藤はスライダーやスブ